会議記録

附属機関の名称	第１回熊谷市総合振興計画審議会
開催日時	令和７年１月１４日（火）１０時３０分から１１時５０分まで
開催場所	熊谷市役所　議会棟２階　第１委員会室
出席者	【委員】 小島正泰会長、大久保和政副会長、田中正委員、加藤道子委員、夏目亮一委員、小林洋一委員、吉田公一委員、小林敏宏委員、細井幹夫委員、宇野悦朗委員、武田隆子委員、山田廣和委員 （※紫藤晃男委員、嶋田勝利委員、向井清委員は欠席） 【事務局】 小林市長、増田総合政策部長、田谷企画課長、服部副課長、萩原主査
傍聴人	０人
問い合わせ先（所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線２１５）
内容	**１　開会** **２　委嘱状の交付**　小林市長から委嘱状を交付 **３　あいさつ**　小林市長からあいさつ **４　自己紹介**　委員、事務局職員それぞれが自己紹介 **５　会長・副会長の選出**　会長に小島委員、副会長に大久保委員を選出 **６　議事**　審議会条例第６条第１項の規定により、会長が議事進行 ⑴　会議の公開について 熊谷市付属機関の会議の公開に関する要綱に基づき会議を公開とし、要旨をまとめた会議記録を作成、公開することが決定した。 ⑵　第２次総合振興計画後期基本計画の進捗状況について 事務局から令和６年度熊谷市総合振興計画審議会資料、成果指標の実績値及び進捗状況一覧（資料１）、まちづくり市民アンケートの集計結果（資料２）及び令和６年度事務事業評価（令和５年度評価）一覧表（資料３）に基づき説明を行った。 主な意見、質問等は次のとおり。 （意見、質問等） （委　員）資料１、資料２の中で「健康であると思っている市民の割合」について、コロナの影響で徐々に下がったのか。コロナにより健康に気をつかうようになったのか。 （事務局）原因としてコロナの影響も考えられる。 （委　員）資料１P2 で、児童クラブの待機児童が増えている。学校訪問した

	際、空き教室を児童クラブに利用していた。全国的に待機児童は増えていて、都心から離れて住み、保護者の勤務時間が増えているから。待機児童となった子は、今どうしているのか。今後も空き教室、敷地内で別棟建てる、保育園で待てるようにするなど、民間を利用してほしい。 （委　員）事務事業評価の廃止・断念となった事業は、どのようなものか。 （事務局）新型コロナウイルスワクチン接種事業、高齢者住宅整備資金貸付事業、外国人高齢者等福祉手当支給事業などである。 （委　員）事務事業評価で現状維持となった 85.6％の事業は、どのように発展していくのか。 （事務局）引き続き事業として必要なものであり、予算規模とは別である。 （委　員）資料２P17 で、熊谷の宝として「ラグビー・ラグビータウン」が前年より減っている。引き続き、どのように盛り上げるのか。うちわ祭、祭りの回答数は増えている。全体の割合はどうなっているか。 （事務局）ホームゲームが開催される週の週末には、職場においてワイルドナイツベースボールシャツを着用したり、決勝戦等の時には応戦ツアーを実施するなどしているが、引き続き、周知を図るなど力を入れていく。 （委　員）資料１P3 でごみの資源化率が遅れている。雑紙キャンペーンなど対策はとっていると思うが、数値が上がっていない。今後どのように対応しているか。 （事務局）市民に対してリサイクルをすすめている。最終処分場の焼却灰をセメントの原料として再資源化を図っている。ここの数値は、行政側の取組となっている。 （委　員）資料１P5 で審議会等への女性の登用率が遅れている。具体的な取組は。 （事務局）女性の登用率 40％にならない理由を調査している。選出母体に女性が少ないなど、ハードルが高くなっている。 （委　員）女性登用率選出母体に女性が少ないとのことだが、国も 40％達成し、県も 44％、熊谷は 20％代と低迷している。熊谷市は、男女共同都市宣言を県内でも早く行ったのに、低迷し続けているのはなぜか。達成している県などに聞いてみるなど、ほかの方策の検討をしてほしい。 （委　員）資料３は資料２を基にしているのか。（事務事業評価は、市民アンケートの結果を基にしているか）人口比率を考えると、アンケート回収率は低いのではないかと思う。選挙も含め、若者の参画意識の低さが露見している。アンケートは、人口比率を考えた回収ができると、評価基準がつかいやすくなるのでは。 （事務局）市民アンケートの結果だけでなく、各課の指標を基に評価している。 （委　員）資料２P3 の婚姻の有無について、「その他」とはなにか。 （事務局）パートナーシップ、離婚・死別により現在独身などである。

	（委　員）婚姻の有無については、パートナーシップ制度の欄があってもいいのではないか。 （委　員）資料１P5 で公共施設の延床面積が減少しているにもかかわらず、インフラの維持管理コストが増加しているのはなぜか。 （事務局）公共施設の延床面積は、施設の統廃合等により床面積を減らす、インフラの維持管理コストは、道路、橋りょうなどで対象が異なる。 （委　員）資料３について、優先度をつけるなど、資料のアピールの仕方を考えてほしい。 （事務局）見やすい表示となるよう工夫する。 （委　員）資料１でアセットマネジメントが遅れているが、学校の改修等は進んでいて順調とあるが。 （事務局）学校の統廃合が早々に予定されているものについては、トイレ整備等の計画から外しており、二重の投資にならないようにしている。 （委　員）都市マスは数年前に作ってそれに基づいて都市計画、公共交通方針があるが、アンケート結果では住みたくない、やや住みたくない割合が上がっている。理由は、交通の便が悪い、生活環境が悪い、医療・福祉施設が少ないからである。バスターミナルが改善しない、南口の再整備、土地利用の見直しは少ししたが、事務事業評価で現状維持となっているのが、わからない。 （事務局）公共交通については、路線バスは近隣市よりは充実している。補完するために循環バスを運行､来年度は AI オンデマンド導入を予定している。南口については、有効利用を考えていきたい。予算規模の増額ではなく、事業内容が拡大すれば事業拡大となっていく。 （委　員）ラグビーの時、熊谷は渋滞する。これは北口だが、バスがバスターミナルに入れないから、バスが戻れないため、解消してほしい。南口は大型バスが入れない、体育館があっても誘導路も難しい。総振が都市計画につながるようにしてほしい。MaaS と言うが、駅から矢印が出ている、都市整備の基になるところが中心でいいのか。将来を見据えて計画を。 （事務局）MaaS 計画の AI オンデマンド交通では、先ずは、妻沼地域での運行を考えており、地域内に停留所を設置して、その間を運行する。駅へは向かわず、駅に向かう路線バス等の停留所まで運行して、そこから路線バスに乗ってもらうようにと考えている。 （委　員）資料１で遅れいているものが多い。事務事業評価で事業拡大が多くなってもいいのではないか。 （事務局）事業拡大とは､既存事業の中で何か新しいことを行うものである。現状維持であっても予算規模が拡大するものはある。 （委　員）体育館の整備構想について、南口との連携、アクセス道路を含めての位置づけが進んでいない。個別計画だけで終わらせていいのか、南

	口からのアクセスのよさ、メリットを生かす方法があってもいいのではないか。 **7　閉会** 以上

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。